

Different Hormonal Expression Patterns Between Primary Pancreatic Neuroendocrine Tumors and Metastatic Sites

木村, 英世

<https://hdl.handle.net/2324/1654720>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名：木村 英世

論 文 名：Different Hormonal Expression Patterns between Primary Pancreatic
Neuroendocrine Tumors and Metastatic Sites
(膵神経内分泌腫瘍におけるホルモン発現様式は原発巣・転移巣間で異なる)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

膵神経内分泌腫瘍 (pancreatic neuroendocrine tumors, PNETs) において、複数のホルモンを産生するという腫瘍の不均質性が知られている。そこで、ホルモン発現の観点から PNET のもつ不均質性を評価することを目的とした。4 種類の代表的なホルモンである、ガストリンおよびインスリン、グルカゴン、ソマトスタチンの発現を原発巣、転移巣それぞれにおいて免疫組織化学染色を用いて検討した。対象はリンパ節転移を認めた PNET20 例で、6 例はガストリノーマ、1 例はインスリノーマ、1 例はグルカゴノーマ、12 例は非機能性 PNET であった。20 例中 7 例では同時性肝転移を認め、肝転移巣も対象とした。7 例中 2 例はガストリノーマ、5 例は非機能性 PNET であった。20 例中 6 例に複数のホルモンの発現を認め(30%)、非機能性 PNET12 例中 9 例で少なくとも 1 つのホルモンの発現が認められた。原発巣・リンパ節転移巣間、原発巣・肝転移巣間でのホルモン発現陽性一致率はそれぞれ 50%、11%であった。3 例では原発巣で発現を認めないホルモンが、転移巣でのみ認められた。結論として、ホルモン発現様式は原発巣・転移巣間でしばしば異なることが示唆された。